

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

大谷翔平選手の活躍で思うこと

MLBのロサンゼルス・エンゼルスに所属する大谷翔平選手の活躍ぶりを伝えるニュースを仕事中のPCで確認するビジネスマンは多いことでしょう。海外で活躍するプロスポーツ選手が増えたのは、野茂、イチロー、松井、大谷と切れ目なく活躍選手を輩出する野球と、中田、高原、香川、長友、本田のサッカーが先鞭をつけ、直近ではゴルフ、テニス、バスケットボールとスポーツ種目範囲が広がっています。

彼らの活躍を見ていて、プレーもさることながら「言葉の壁」を乗り越えている姿に、これまでのスポーツ選手観がいかにつまらないものであったかを反省するのです。欧州の名門チームで活躍するサッカー選手が通訳なしでインタビューに答える映像は、私にとってはそれまでの語学教育観が崩れる程の衝撃でした。

外国語を操る人は、立派な大学の外国語学部や、英文科を卒業したエリートであり、その就職先は財閥系大手商社や海外支店を展開する世界的ハイテク企業だろうといった具合です。海外のフィールドに挑戦するアスリート達が中学・高校で通過してきた英語の授業の成績を気にする余裕はなかったでしょう。彼らが異なる言語を習得出来たのは行動力の違いだけかもしれない、と思うようになったのです。

海外で活躍する日本人アスリートは何も特別な存在ではありません。スポーツの世界よりずっと前に、無名のビジネスマンたちが日本経済を世界第2位の地位に押し上げる仕事を世界各地に散らばってやり遂げてきたのです。大谷翔平選手も無名のビジネスマン達も違いはありません。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年度も拙文にて皆様に経営者として日頃より感じている事を綴ります。今後とも当社をよろしく願い申し上げます。

松本 隆一郎